

ここに生き、
住み、働き、学び、
たたかい、
ここを変える。

松山市紅葉町2-5

近代史文庫

電話・FAX 089-943-4856

わたしたちの近代史文庫

わたしたちの近代史文庫は、一九五三年八月に創立されました。現在に至るまで、各会員は、自分が住み働く地域住民社会集団のなかで、研究と教育と社会的実践につとめてきました。ある者は、村や町の地方(しかた)史料の収集を、ある者は、新聞記事の筆耕をこつこつと続け、ある者は、村や町の幼ない住民である児童・生徒を教えながら、父母・青年と、その村や町を変えるために活動し、またある者は労働運動のなかで、ある者は、母親運動のなかで、学びながら記録をとり続けてきました。

わたしたちは、愛媛の村や町だけでなく、全国各地で、地域住民として多くの住民とともに学習し、研究活動をしてきました。そうした長年の活動のなかで、わたしたちは、歴史の進歩は、地域住民の主體的成長と地域社会の変革を通して可能となることを体得し、これまでの「郷土史」、「地方史」の考え方をのりこえ、地域社会の歴史をとらえる新しい観点として「地域社会史論」を提起しました。

わたしたちに、そうした自覚を促したものは、一九五〇年代後半から現在に至る地域社会の動きであったといえましよう。とくに、愛媛における勤評闘争・安保闘争・学テ問題・地域開発・公害問題など一連の動きに示されるような、中央直結の保守県政及び七〇年代後半における「保守の地域主義」県政の展開によって、わたしたちは、地域社会史論の観点を一層深化させる努力をつづけてまいりました。

この間、わたしたちは、『愛媛近代史料』・『愛媛現代史料』・機関誌『愛媛近代史研究』・『愛媛資本主義社会史』を遂次刊行し、大阪の会員たちは、部落問題関係資料を、宇和島の会員たちは、伊達家史料を、それぞれ、続刊しています。

近代史文庫の会員は、それぞれ、住んで働いている各地域で、地域研究会を組織し、現在、県内全国で一〇の地域研究会が活動しています。会員は学歴・職業に関係なく平等な研究者として結集し、地域住民の手で地域住民の歴史を記録し、分析し、総括するための共同研究を進めています。

わたしたちは、この営みを“人民の記録係”を勤めることだと考え、史料はすべて、広く公開し、多様な地域住民の共同研究の輪を広げること努めてきました。わたしたちは、地域社会の歴史を調べ、書き、語り伝えることを通し

て、地域社会の歴史をつくる担い手として成長したいと思っています。

一九七四年一月、わたしたち近代史文庫に、愛媛新聞賞が贈られました。これは、愛媛の地域住民が私たちの活動を理解し、激励してくださったのだと考え、一層の努力の必要を感じました。

かねてから、私たちは、近代史文庫が地域社会の歴史の調査研究に役立つ資料センターとしての役割や、地域社会の多様な研究・教育・文化活動の会場としての役割をも担うことができれば幸いであると考え、一九七五年八月の総会で、近代史文庫会館の建設を決定しました。わたしたちは、この会館建設を、建物を建てるという見地からだけでなく、地域社会史論の観点に立った運動としてとらえ、地域住民の教育運動の一環としてとりくみました。会員家族の協力はもとより、県内・全国各地の研究者・研究団体などのご支援を得て、一九七九年八月に竣工することができました。

わたしたちは、地域住民の科学としての地域社会史研究と地域住民の歴史教育運動とを結合し、地域住民の主体形成運動としての「地域住民社会史学運動」を進めていきたいと念願しています。

わたしたちは、ここに生き、住み、働き、学び、闘う営みを限りなく続けていくために、さまざまな入々の新しい視点と若々しいエネルギーが注ぎ込まれることを願っています。

一九八一年

近代史文庫規約

第一章 総則

- 第一条 本文庫は近代史文庫と名づける。
- 第二条 本文庫の事務室・研究室・閲覧室・書庫・資料室・宿泊室を松山市紅葉町八八番地九の近代史文庫会館内におく。
- 第三条 本文庫は、会員の共同研究を推進し、学問研究・教育・社会的実践の進歩に資することを目的とする。
- 第四条 本文庫は、前条の目的を達成するため次の事業を行なう。
イ、研究会。ロ、史料収集および刊行。ハ、機関誌の発行。
ニ、研究図書の新刊。ホ、其の他の必要な事業。

第二章 厚生

- 第五条 本文庫の趣旨に賛同し、その目的達成のため積極的に共同する熱意を有する者は、会員の推薦により、運営委員会の承認を得て会員になることができる。
- 第六条 本文庫に総会・運営委員会及び専門委員会を置く。
- 第七条 本文庫に地域研究会および地域研究会代表者会議を置く。

第三章 総会および地域研究会代表者会

- 第八条 総会は、本文庫の最高決議機関である。
- 第九条 期総会は年一回開催する。ただし、必要により臨時総会を開催することができる。
- 第十条 総会は、予算・決算・事業計画・規約改正・会員の入会および退会、各委員の選出、地域研究会の承認などを行う。
- 第十一条 総会の決議は、出席会員の三分の二以上の賛成による。
- 第十二条 地域研究会代表者会議は、各地域権代表者1名・主事・副主事・会計・庶務・図書委員・企画委員・出版委員および各専門委員会の責任者並びに基金局長で持つて構成する。

第四章 運営委員会および専門委員会

- 第十三条 運営委員は、総会において選出する。
- 第十四条 運営委員の任期は、定期総会より次の定期総会までの一カ年とする。但し再任することができる。
- 第十五条 運営委員会は、催促の制定・改廃、毎月の予算決算、会員の入会・退会、地域研究会の設置、改廃およびその他文庫運営上必要な

事項を審議決定し、執行する。但し、運営委員会の決定は、次の総会において事後承認を得なければならない。総会が否認した場合は総会の決議にしたがう。

- 第十六条 運営委員会は次の任務を分担する。必要な場合は同一の委員が二つ以上の任務を兼務することができる。代表者1名、主事1名、副主事2名、会計1名、庶務若干名、図書若干名、企画若干名、出版若干名。
- 第十七条 代表者は、会員を代表し文庫を管理する責任がある。
- 第十八条 主事は、総会及び運営委員会・研究会を招集して議事を主催し、運営上の責任を持つ。主事は、分所在地に在住する会員でなければならない。
- 第十九条 副主事は、主事を補佐する。
- 第二十条 会計は、会費・寄付金・基金・借入金などの管理ならびに必要な経費の支出にあたる。
- 第二十一条 庶務は、主事・副主事を助けて文庫運営上の庶務を処理する。
- 第二十二条 図書委員は、図書、雑誌・資料の購入、整理・貸し出し・展示等にあたる。
- 第二十三条 企画委員は、運営委員および専門委員中より選出されて兼務し、事業の企画にあたる。
- 第二十四条 出版委員は、本文庫に必要な出版にあたる。
- 第二十五条 専門委員会に次の委員会を置き、別に定める規定によつて運営する。
ア、研究総括委員会 イ、財政委員会 ウ、史料委員会 エ、機関誌編集委員会オ、図書刊行委員会 カ、会館管理運営委員会
第二十六条 研究総括委員会は、会員の研究活動を総括し、推進をはかる。
第二十七条 財政委員会は、財政を担当する。
第二十八条 史料委員会は、「愛媛近代史料」「愛媛現代史料」等の編集刊行にあたる。
- 第二十九条 機関誌編集委員会は、「愛媛近代史研究」の編集・刊行にあたる。
- 第三十条 図書刊行委員会は、『愛媛資本主義社会史』等の刊行にあたる。
- 第三十一条 会館管理運営委員会は、会館の管理運営にあたる。
- 第三十二条 専門委員会の他に、文庫運営上とくに必要があるときは、総会の承認を受けて特別の委員会を置くことができる。

第五章 監査

第三十三条 監査委員若干名を置く。監査委員は、本文庫の事業を監査する。

第六章 会計

第三十四条 本文庫運営の経費は、会費および寄付金・基金をもってこれにあてる。

第三十五条 本文庫の基金を収納・保管するための基金局を置く。

第三十六条 本文庫の会計年度は、定期総会から次の定期総会までとする。

第三十七条 会費は、月額一口400円とする。

第三十八条 会館の維持費は、文庫の通常経費および会館維持費並びに会館拋出金、会館寄付金をもってこれにあてる。

第三十九条 会館維持費は、月額100円とする。

第七章 休会・退会

第四十条 会員としての活動を一時休止する場合は、運営委員会に申し出て休会とする。休会中は、会費・会館維持費の納入を中止する。

第四十一条 本文庫の会員を辞するとき、運営委員会に申し出ることとする。

一、会員で会費滞納が二十四ヶ月におよぶときは、運営委員会の議を経て退会したものとみなす。

補則

第四十二条 この規約は、一九七九年九月一五日より施行する。

近代史文庫会館管理運営委員会規定

第一条 近代史文庫会館の管理運営のため会館管理運営委員会(以下会館委員会という)をおく。

第二条 会館委員会は、会館の土地・建物の維持・管理及び会館の使用等を含む一切の運営にあたるものとする。

第三条 会館委員会の構成は、次の通りとし、任期は一年とする。ただし再任をさまたげない。

委員長一名、副委員長二名、事務局長一名、会計一名、会計監査二名、委員若干名(各地域研究会代表者を含む)

第四条 会館委員は、文庫総会で選出するものとする。委員には、文庫代表者・

主事・副主事・財政委員長をふくむものとする。中予在住の委員で事務局を構成する。

第五条 委員長は、委員会を招集し議事を主宰する。副委員長は委員長を補佐し、委員長事故あるときはその職務を代理する。事務局長は委員長の指示により委員会の事務を処理する。会計は委員会の会計を処理し、会計監査は委員会の会計を監査する。

第六条 委員会の議事は委員長・副委員長・事務局長のうち二名を含む五名以上の出席がなければ議決しないこととする。

第七条 委員会は次の業務を行なう。

一、開館の管理運営に関する基本方針並びに会館使用規定の審議制定・改廃

二、会館の土地・建物の保全・整備

三、会館の土地・建物の登記及び権利証・登記書類等重要書類の保管

四、会館拋出金、長期・短期借入金、寄付金、会館維持費等の受け入れ・保管・返済・支出及び募金の推進

五、会館建設・維持に伴う税金・光熱費・上下水道費または町内会費の支払い

六、会館運営計画(年間計画、月間計画)の決定

七、会館使用料の徴収

八、その他必要な事項

第九条 会館の管理運営の基本方針及び会館会計並びに会館使用規定は、文庫運営委員会、文庫総会で承認を得なければならない。

第十条 会館の土地建物を処分する場合は、総会の決定に基づき処分委員会がこれにあたる。

附則 この規定に定めるものの他、会館運営上必要な事項は委員会で審議決定し、文庫運営委員会、文庫総会の承認を得るものとする。

この規定は一九七九年九月一五日より施行する。会館建設委員会は、この規定施行の日に解散し、会館委員会がその業務を継承する。

近代史文庫会館使用規定

- 一、会館の使用は、文庫総会・会館委員会が定める会館運営の基本方針並びに運営計画に基づき、この規定によって行なう。
 - 一、会館の使用時間は原則として10時より22時までとする。
 - 一、文庫会員が研究活動及び文庫の会議・研究会に使用する場合は文庫専従者または宿直者に連絡するものとする。
 - 一、文庫会員が宿泊に使用する場合は、原則として使用2日前までに文庫専従者に連絡するものとする。
 - 一、文庫会員以外のものが会館を使用(会合・宿泊)する場合は使用3日前までに所定の用紙に必要な事項を記載して会館委員会事務局に提出し承認を得るものとする。
 - 一、文庫会員以外のものが会館を使用する場合は所定の使用料・宿泊料を納めるものとする。
 - 一、近隣に迷惑をかける会合・宿泊は認めないものとする。
 - 一、使用者は火気に厳重に注意し、使用後は使用前の状態にもどして清掃するものとする。
 - 一、会館の建物・器物等を破損した場合は原則として弁償しなければならない。
 - 一、会館の使用料・宿泊料は左記の通りとする。
- 使用料(4階8畳又は12畳のいずれか)
- ア、会員(研究活動以外)
 - イ、会員を含むグループ及び会館建設・維持協力者
 - ウ、会員以外のグループ
- 尚、8畳・12畳を同時に使用する場合は、右の半額を加算する。一時く二時間使用する場合は、イは一時間一〇〇円、ウは二〇〇円として計算する。

○宿泊料

- ア、会員及び会員家族 貸布団・暖房費実費
- イ、その他 貸布団・暖房費実費に800円加算

	10:00—13:00	13:00—17:00	18:00—22:00
ア	100円	200円	200円
イ	300円	400円	400円
ウ	600円	800円	800円

近代史文庫出版目録

■ 申し込み方法

各巻・各号の頒布価格に送料を添えて申し込んでください。
着本後（送金下さっても結構です）

■ 申し込み先

住所 〒七九〇―〇八六一 松山市紅葉町二丁五
電話 FAX 〇八九―九四三―四八五六
振替口座 徳島1473

○ 『愛媛資本主義社会史』 第一巻 一九六八年（四、五〇〇円）

序文

地域社会史の創造

「明治百年」をふまえた「廃県置州」

地主制の成立過程―南予の地主制―

網元制の展開と明治維新―南予の場合―

明治維新期の階級闘争―南予の場合―

愛媛における国会開設をめぐる政治運動

―自由党解党から国会開設まで―

会員一同

篠崎 勝

篠崎 勝

三好昌文

古谷直康

三好昌文

島津豊幸

○ 『愛媛資本主義社会史』 第二巻 一九七二年（五、五〇〇円）

『都市の論理』批判と「明治百年」の「郷土」

一九七〇年の「地域社会」と地域社会史論

水産物流通の発展と明治維新

―伊予国・愛媛県における魚市場の発展を中心として―

「学制」前史

「学制」前史研究の基本的観点

身分制的教学体制の崩壊過程

民衆教育の発展

―伊予における寺子屋の考察を中心として―

明治維新期の階級闘争(II)

―無役地事件について―

愛媛における国会開設をめぐる政治運動(II)

「学制」研究グループ

汲田克夫

高市光男

三好昌文

三好昌文

島津豊幸

第1号 1963年1月（四切れ）

創刊のことは

愛媛県における「学制」体制の展開過程 その一

南予における地主制の存在形態

地域社会の歴史的研究

東宇和郡宇和町永長地区の農業溝造改善事業

汲田克夫

三好昌文

篠崎勝

三好昌文

第2号 1963年4月（四切れ）

愛媛の自由民権運動―明治二〇年三大事件建白運動をめぐる―

宇和島藩の藩制改革について

地域社会史研究の今日的意義 その1

南予における真珠養殖事業の展開と漁民

高市みどり

三好昌文

汲田克夫

古谷直康

○ 『愛媛資本主義社会史』 第三巻 一九九四年（六、〇〇〇円）

近代史文庫のあゆみ

地域社会史論考

「地域」論―「地域史」論・地域社会史論

愛媛の地域住民と天皇・天皇制

(一) 愛媛の天皇制イデオロギー

I 矢野玄道と大嘗祭

II 住民自治思想・水平思想・教育思想と天皇崇拜

森盲天外・松浪彦三郎・伊藤角一・竹葉秀雄

(二) 天皇代替わりと愛媛住民

I 代替わりと大学生の意識

II 代替わりと行政・企業・マスコミ・市民の動き

天皇代替わりを考える―地域住民と天皇・天皇制

(一) 代替わり諸儀式と日本国憲法

(二) 代替わりをめぐる全国各地域諸団体の動き

(三) 代替わりをめぐる外国の政府・マスコミ・国民の動き

井上啓 荃田弘道 井上武夫 篠崎勝

作田和夫

6

「愛媛近代史研究」

編集委員会

玉上陸郎

澄田恭一

篠崎 勝

篠崎 勝

作田和夫

多田信義

第3号 1963年9月 (品切れ)

岩村県政期の諸問題

岩村高俊の階級的性格

岩村県政期における村落機構

岩村県政期における県議会の性格

岩村高俊の階級的性格

岩村高俊関係年表

明治18年愛媛県小作慣行調査の研究―地主制の展開を中心として― 古谷直康

明治18年愛媛県小作慣行調査の分析

島津豊幸

高須賀康生

西原正周

汲田克夫

島津・高須賀・西原・汲田

菅 明俊

―資金の蓄積状況について(その1)―

宇和島藩における藩政改革の思想(1)

宇和島藩思想史年表

戦後の社会教育史―特に最近10年間の愛媛県教委の青年団体策―

井村 肇

第8号 1965年2月 (品切れ)

イワシ網漁業における縄元制の推過程(その1)―宇和島・吉田藩の場合―

森盲天外事蹟聞書

住友別子銅山関係年表

南予における一本釣漁業の系譜と構造

中学生の社会認識調査

二枚の答案用紙

古谷直康

汲田克夫

須賀俊夫

古谷直康

河野真一

八幡陸郎

第5号 1964年2月 (品切れ)

地域社会における民衆の歴史をいかにとらえるか

イワシ網漁業における縄元制の成立(その1)―宇和島・吉田藩の場合―

宇和島藩における寛保―宝暦期の改革

宇和島藩年表

北宇和郡広見町北宇和中学校一〇年史年表

社会科学教育の当面の課題―いわゆる構造化をめぐる―

篠崎 勝

古谷直康

三好昌文

三好昌文

河野真一

八幡陸郎

第9号 1965年12月 (5000円)

イワシ網漁業における縄元制の推過程(その2)―宇和島・吉田藩の場合―

明治維新时期における愛媛の婦人の動き

講義「日本教育史」の反省(その1)

歴史教育における虚像と真実

『資料・愛媛労働運動史』の完成によせて

『南予の百姓一揆』(松浦泰)

古谷直康

渡部富美子

汲田克夫

篠崎 勝

三好昌文

古谷直康

第6号 1964年5月 (品切れ)

イワシ網漁業における縄元制の成立(その2)―宇和島・吉田藩の場合―

久万山・久米騒動の展開―いわゆる“藩主留任要求”の性格―

森盲天外の生涯

盲天外森恒太郎年譜

「民権結社」・「聯合府県議員懇談会」その他

古谷直康

高市光男

汲田克夫

汲田克夫

島津豊幸

第10号 1966年6月 (5000円)

地域社会史の分析と総括の方法について

宇和島藩における文化期の問題点

明治維新时期の愛媛県地方体制の分析と時期区分

講義「日本教育史」の反省(その2)

篠崎 勝

三好昌文

島田直也

汲田克夫

第11号 1966年6月 (5000円)

愛媛県における土族授産

明治維新时期の時期区分をめぐる諸問題(1)

漁業関係

教育関係

酒井和林

古谷直康

汲田克夫

汲田克夫

第7号 1964年11月 (品切れ)

政商住友の別子銅山経営における原始的蓄積過程

民権運動

明治維新时期における郡区町村の編成過程—その1—
本ツタ子

島津豊幸
篠崎勝野

愛媛県における土族授産関係年表

酒井和利

『愛媛地評10年史』の編集について

合田千里

年表でみる愛媛県教育史—1966年4月〜7月—

汲田克夫

第12号 1967年3月 (5000円)

幕末における網元制の展開過程(その1)—宇和島・吉田班の場合—古谷直康

殖産興業関係年表—綿業・養蚕・製糸—
篠崎勝・酒井和利

愛媛県における地租改正年表(その1) 大岩義雄・河田実・田丸五百槻

地域における史料収集—特に部落関係について—
大岩義雄 汲田克夫

講義「日本教育史」の反省(その3) 汲田克夫

戦後愛媛における学生運動の発端(その1)—旧制松山高等学校の場合—
島津豊幸

年表でみる愛媛教育史の現段階—1966年8月〜11月—
汲田克夫

第13号 1967年8月 (5000円)

地域社会史研究の基本的諸問題(その1) 篠崎勝

幕末における網元制の展開過程(その2)—宇和島・吉田班の場合—古谷直康

明治維新时期における愛媛の芸娼妓について(その1) 渡部富美子

愛媛県における地租改正年表(その2) 河田実・花田忠志

「池田町を中心とした部落史編年資料集」 篠崎勝

第14号 1967年11月 (5000円)

地域社会史研究の基本的諸問題(その2) 篠崎勝

『愛媛資本主義社会史』序文章案 刊行委員会

明治四年郡中騒動関係史料 島津豊幸

地域社会史研究の立場と視点 汲田克夫

「市町村広報誌」・「社会報」収集について 武智祐治

愛媛県下広報誌資料一覧 武智祐治

第15号 1968年5月 (5000円)

明治維新时期における南予の階級闘争 三好昌文

地域社会史研究の基本的諸問題(その3) 篠崎勝

明治維新时期における愛媛の芸娼妓について(その2)

私と近代史文庫 渡部富美子

教育労働者として 井上武夫

自己変革の中で 汲田克夫

私の遍歴 藤野正昭

北九州における地域紙研究の問題点

第16号 1968年8月 (5000円)

明治四年大洲騒動について 大洲・喜多研究会

南予における無役地事件について 青野春水

資料・明治前期における農民層の分解過程—北宇和郡三浦—
私と近代史文庫 三好昌文

陸行水行略 八幡陸郎

日記抄 菅 明俊

近代史文庫創立と私 風谷和弘

三十歳の手習い 野本ツタ子

『愛媛資本主義社会史』の題字ができあがるまで 大河内陽三郎

座談会—文庫十五年の歩みを語る— 8

第17号 1969年8月 (5000円)

「学制」前の民衆教育—伊予における寺子屋の普及状況— 高市光男

三大事件・4大事件建白運動の展開 島津豊幸

明治二十年「三大事件建白」署名者の階層について 高市光男

住友と幕政下の農村 高市光男

私と近代史文庫 佐伯 淳

寄らば大樹の陰 三好昌文

明治維新に関する歴史教育は、どう考えられ、どう実践されてきたか 三好昌文

第18号 1970年4月 (5000円)

商品経済と資本制の発達過程—宇和島藩・愛媛県宇和郡・喜多郡の場合—
宇和島研究会

宇和島藩における殖産興業年表 三好昌文

歴史教育にあらわれた「地域社会史論」 三好昌文

—「歴史地理教育」160号を読んで—

愛媛新聞「門」欄投書職業・年齢別統計表 中野則子・古谷直康

第19号 1970年5月 (5000円)

農業生産力発達の一側面

—近世・近代における南予の米作を中心に—

水産物流通の発展と在郷商人

—近世中期以後における宇和島藩・吉田藩の場合—

地域社会における宗教と民衆(その1) —宇和島藩・愛媛県宇和郡の場合—

古谷直康
浜木暢道

明治前期・南予における資本制の発達

三好昌文・中村成男・常盤浄円・井上啓・佐々木皓一・浜木暢道
宇和島研究会

私と近代史文庫

わたしたち民衆自身の内部にかかわる学問とは何か

慶応二年大洲領奥福騒動と宇和郡の無役地事件に関する史料

明治式拾六年国会議員選挙人名簿—愛媛県風早郡—

藤野正昭
三好昌文
島津豊幸

第20号 1970年12月 (5000円)

維新时期松山藩の階級問題について

商品経済と資本制の発達過程

—宇和島藩・愛媛県宇和郡・喜多郡の場合—(その2)

社会科指導要領における“公正さ”とは何か

文久の公害闘争

—宇摩郡半田村平山銅山試掘反対の農民闘争—

民衆運動に関する二つの史料

戦後・東宇和郡魚成青年団史を語る

特別提案・当面の共同研究計画を推進するために

第21号 1972年4月 (5000円)

商品経済と資本制の発達過程

—宇和島藩・愛媛県宇和郡・喜多郡の場合—(その3)

『にんげん』について

瀬戸内海時代とは、公害、か—公害取材メモから—

私と近代史文庫

入会の記

三好昌文
高市光男
武田孟大
橋本増洋

第22号 1973年7月 (5000円)

地域社会における仏教と民衆(その2)

—宇和島・吉田両藩・愛媛県宇和郡の場合—

学制初期の就学状況

—大阪府豊島郡長興寺村(現豊中市)の場合—

「みち志留編」—心学道話巡講記録—

龍沢寺史年表

続『にんげん』について

三好昌文
高市光男
高市光男
宇和島研究会
高市光男

第23号 1973年8月 (10000円)

近代史文庫20周年特集・地域社会史論

創立20周年を迎えて

地域社会史論の貫徹

近代史文庫の歩みと地域社会史論

地域社会史論の原点とバックボーン

15周年大会より20周年大会直前まで

歴教協大会と地域社会史論の展開

私の実践

愛媛の婦人のたたかいと共に

18年目に学ぶ

私の歩んだ16年

第24号 1974年3月 (5000円)

「地域社会と共同体」・『九州自治州への提言』批判

近代史文庫の歩み

20周年記念週間の記録

私の実践

私の歩んだ16年(その2)

第25号 1974年8月 (5000円)

近世後期における一商人資本の諸経営について

—吉田藩領狩江浦・四代目原田庄七の場合—

明治五年 山林払下落札留 石鉄県

近代史文庫の歩み

20周年記念週間の記録(その2)

篠崎 勝
野本ツタ子
大野徹雄

三好昌文
高市光男
高市光男
宇和島研究会
高市光男
島津豊幸
野本ツタ子

第26号 1975年2月 (5000円)

愛媛県の金融機関—明治十年代—
地域社会における仏教と民衆(その3)
—宇和島・吉田両藩・愛媛県宇和郡の場合—
近代史文庫の歩み

松本佳子

三好昌文

野本ツタ子

編集委員会

第27号 1975年7月 (品切れ)

「社稜論」と「皇民自治史観」—権藤成卿『自治民範』批判—
松山・公共社(1)—愛媛県における自由民権運動の成立—
ベトナム解放と地域社会史論

篠崎 勝

島津豊幸

ベトナムの「主人公」(住民自治の原像)
—地域住民・民族の課題を担うもの—
ベトナム人民のたたかいに学ぶ
ついにサイゴン解放の日を思う
座談会に参加して

篠崎 勝

野本ツタ子

藤井早苗

玉井みどり

古谷直康

編集委員会

第28号 1975年11月 (品切れ)

「社稜論」と「皇民自治史観」(その2)—権藤成卿『自治民範』批判—
松山・公共社(2)—愛媛県における自由民権運動の成立—
「私学助成」運動 年表断片

篠崎 勝

島津豊幸

古谷直康

古谷直康

長野 暹

古文書紹介 明治3年山奥六八千邑出之時分願書ひかえ牒(1)

第29号 1976年5月 (品切れ)

夫役賦課と部落差別
地域社会史論考綴(その1)—教育と住民自治
燧灘・西条沖の埋立事業の概要と臨海工業「開発」との関連について
或るレポート 愛媛の教育の側面

高市光男

篠崎 勝

向井康雄

玉上陸郎

近代史文庫宇和島研究会創立20周年記念大会の報告

三好昌文・井上啓・佐々木皓一

第30号 1976年11月 (6000円)

地域社会史論考綴(その2)
—「共同体」「コミュニケーション」「むら」「ふるさと」について—
宇和郡の歴史
藤原純友の乱研究のための一視角
昭和前期の小作争議に関する二、三の史料
大正・昭和農民運動史料の編集について(中間報告)

篠崎 勝

三好昌文

小林昌二

桑原真人

今井貴一

松山市議会婦人議員発言集録

教育関係(その1) 一九四七年〜一九五二年

二・一ストの想い出—先生からの訴えで安心した私

池田せつ

工水戸富士子

第31号 1977年8月 (6000円)

地域社会史論考綴(その3)

—「地方学」「地域主義」「地方主義」「常民」について—
—在郷商人の資本家への推転過程—
—宇和島藩領保内組川之石浦矢野小十郎の場合—

篠崎 勝

三好昌文

山口孝蔵

古文書紹介 明治3年山奥六八千邑出之時分願書ひかえ牒(2)

古文書紹介 明治3年山奥六八千邑出之時分願書ひかえ牒(3)

第32号 1978年2月 (8000円)

地域社会史論考綴(その4)

—「地方論への試み」と「地域分権の思想」—
宇和島藩初期の農政についての覚書

「明治九年浮穴郡久谷村畝順帳」調査中間報告

耕作仕方控

篠崎 勝

三好昌文

中予研究会

葛 優

古文書紹介 明治3年山奥六八千邑出之時分願書ひかえ牒(3)

第33号 1978年8月 (8000円)

地域社会史論考綴(その5)

—瀬戸内の地域社会—

在外研究員としてブラジルを旅して

地域から見直す歴史(上)

篠崎 勝

汲田克夫

古谷直康

古谷直康

「愚啓開眼」その後(一九六七年〜一九七二年) 井上啓日誌より
拝借米返納につき風早郡庄屋百姓共願書

第34号 1979年3月 (800円)

宇和島城下町の形成について

地域から見直す歴史(下)

愛媛大学学生運動史(一九六九年九月〜一〇月)

二宮敬作と宇和の人々

三好昌文

古谷直康

佐藤則子

河野真一

第35号 1979年8月 (800円)

新居郡中野村の検地帳について

元号と年号

掘り起(さ)れる東北民衆の歴史―地域開発と地域社会史考―

松山女学校創立記念式関係史料

宇和島市ごみ焼却場建設計画に係る鑑定書について

高市光男

篠崎 勝

武智祐治

古谷直康

向井康雄

第36号 1980年4月 (800円)

近代史文庫の歩み

―二〇周年記念集会以後、文庫会館完成まで―

伊予各藩検地帳における賤民記載

地域社会史論考綴(その6)

―「都市の理論」・「地方の時代」・「保守の」・「地域主義」(1)

高市光男

篠崎 勝

第37号 1980年8月 (800円)

地域社会史論考綴(その7)

―地域社会史のとらえ方・とりくみ方・進め方―

慶応三年別子銅山稼人一揆について

愛媛に生きる―岡崎輝雄聞き取り(その1)―

テレビ・子供・親

中予研・住友研究グループ

曾根健治

武田孟大

第38号 1980年12月 (800円)

地域社会史論考綴(その8)

―「都市の理論」・「地方の時代」・「保守の」・「地域主義」(2)

私の地域社会

愛媛の民衆(その小さな伝記)―岡崎輝雄聞き取り(その1)―

篠崎 勝

玉上陸郎

曾根健治

第39号 1981年6月 (800円)

宇摩郡川之江村文化元年百姓一揆

「都市の理論」「地方の時代」「保守の」(地域主義)(三)

―地域社会史論考綴(その9)―

近代史文庫宇和島研究会創立25周年記念大会の報告

宇和島研究会の歩み

創立25周年記念事業の概要

宇和島藩における年貢輸送について

三間町における教育労働運動

宇和島における地域住民教育運動

伊達家史料とその研究の意義

田辺敬一

篠崎勝

宇和島研究会

宇和島研究会

蔦 優

井上 啓

佐々木皓一

三好昌文

第40号 1981年10月 (800円)

17世紀の農村耕造

―新居郡上島山村・越智郡八町村の場合―

明治維新时期における愛媛の女子教育

―丹美園・石崎ナカ・三輪田真佐子 松山女学校の創立を中心にして―

史料紹介

『世世繁盛記』志番・式番(宇和島藩城下組大浦庄屋清家史料)

高市光男

渡部富美子

11

第41号 1982年4月 (800円)

近世賤民の土地所有

―松山藩風早郡中通村の場合―

明治維新时期における愛媛の女子教育(その2)

―丹美園・石崎ナカ・三輪田真佐子 松山女学校の創立を中心にして―

愛媛近世賤民制年表

「立札」運動の意義と役割について一層の討議をよびかける

宇和島における立札運動の経過

高市光男

渡部富美子

高市光男

小林昌二

三好昌文

第42号 1982年6月 (800円)

愛媛県における明治初期の公的救済(その1)

―明治8、9年の「棄児養育」について―

明治維新时期における愛媛の女子教育(その3)

―丹美園・石崎ナカ・三輪田真佐子 松山女学校の創立を中心にして―

曲田志保子

「都市の論理」「地方の時代」「保守の（地域主義）」(4)

——地域社会試験考綴その10——

自由民権百周年——愛媛県の場合

——日暮れて道遠し——

「旧村立札運動の意義」

渡部富美子

篠崎勝

島津豊幸

山崎 薫

第43号 1982年7月 (8000円)

明治維新时期における愛媛の製糸伝習女工の群像

——養蚕・製糸・綿織女工一覽表——

丹美園について

愛媛近世賤民制年表(その2)

——土地所有——

結城千恵美

渡部富美子

高市光男

第44号・45号 1982年8月 (16000円)

明治維新时期における愛媛の女子教育(その5)

——丹美園・石崎ナカ・三輪田真佐子 松山女学校の創立を中心にして——

渡部富美子

戦後労働運動史研究グループ

八幡浜・東西宇和研究会

島津豊幸

林家文書

明治十一年松山における植木枝盛演説

愛媛近世賤民制年表(その3)

——人口動態——

歴史シンポジウム「幕末・維新の宇和島」について

「幕末・維新の宇和島」シンポに参加して

「幕末・維新の宇和島」シンポの感想

文庫会館完成より創立29周年まで

高市光男

三好昌文

長野 進

河野真一

柳瀬一秀・結城千恵美

第46号 1983年8月 (8000円)

伊予に残る隠れキリシタンの謎(その1)

松山藩風早郡中通村の賤民の持高変遷表

「教科書問題と戦争を考える集」

堀井順次

高市光男

実行委員会

第47号 1983年8月 (8000円)

近世賤民制の成立について

高市光男

伊予に残る隠れキリシタンの謎(その2)
小林実・回顧録——松山戦災者同盟の結成
戦後愛媛の動きと地域社会史論
——愛媛住民はどのような道を歩んで成長してきたか——

堀井順次
史料委員会
篠崎勝

第48・49号 1983年11月 (16000円)

ここに生きて、ここを変えろ——近代史文庫30年の歩み——

1. 研究者が地域住民になり地域住民が研究者になる

——地域住民研究者集団の成長——

2. 地域住民の成長を軸にして地域社会の歴史をとらえる

——地域社会史試験の展開——

第50号 1985年3月 (8000円)

特集・戦後愛媛と地域社会史論

第一部 愛媛の地域開発と住民運動

愛媛の地域開発

愛媛の革新——この10年——

地域労働運動に関する一考察

戦後労働運動の時期区分

愛媛の住民運動に学ぶ

第二部 『郷土に生きた人びと』と地域社会史論

地域社会史論の観点と『郷土に生きた人びと』

人の世に熱と光を求めて

近代史文庫への長い道

地域社会に生きるとはどういうことか

山口卓志

阪本忠士

星島一夫 12

川又義博

向井康雄

玉上陸郎

井上 啓

柳瀬一秀

篠崎 勝

第51号 1985年3月 (8000円)

特集・戦後愛媛の教育をいま、なぜ……

第一部 私の勤評・学テ闘争と年表愛媛の勤評・学テ闘争

私と勤評闘争

学テ闘争における『八幡問題』の経過

愛媛県勤評・学力テスト反対闘争年表

第二部 証言・戦後愛媛の教育——勤評・学テ・教育改革をめぐる—— 問

題提起・愛媛の戦後教育史の底に流れているもの

証言——えひめの民主教育のために——今だから言う、今のうちに言っておきたい

山田 明

玉上陸郎

井上 啓

古谷直康

校長そして組合員として闘った64日
見せしめ人事の別居9年——夫婦教師のたたかい
「清浄化」されねばならない愛媛の教育
「草の芽」の母親と学力テスト反対闘争
テープ証言・「真実はこうだ」——学テ当時の小・中学生は語る——
教科書問題と教育改革——集会での発言要旨——
集会のまとめ

檜楨 茂
立田澄子
石川石造
松本晶子
今井克樹
伊藤恒夫

第一部 わたしたちの歩み——いまを生きる女性史の発見
私のえひめ——聞き書き・川又美子
平和への道程
私の女性史
女性の魅力・女性史の魅力
「さんき」の仲間になるまで
新しい女性の生き方を求めて

篠崎勝
東 由美子
永見弘子
坂本千枝子
森田志美
千田紀久子

第52号 1986年3月 (800円)

特集・愛媛の平和教育と平和運動
第一部 平和教育の実践

平和教育と私
平和教育への干渉
戦争と平和をどう教えるか
松山平野の戦争史跡
質疑・討論——生徒はどう変わったか——
愛媛平和運動史年表作成

澄田恭一
佐伯弘晃
山崎 薫
古谷直康
井上 啓

第54号 1987年7月 (800円)

特集・愛媛勤評闘争を考える
勤評闘争の歴史的意義
剣の道に生きる
——竹葉秀雄にとつて勤評は何であったか——
勤評政策と私

佐々木隆爾
篠崎 勝
吉岡輝雄

第二部 平和運動の実践——85.8.18被爆40周年記念集会
集会の位置づけ——柳瀬一秀実行委員長からのあいさつ

井上 啓

第55号 1988年3月 (800円)

周桑郡地域における四阪島煙害と地域住民
愛媛の勤評闘争を考える
私の勤評体験——周桑郡の闘い
小田町事件を追う——上浮穴郡での闘い
青年教師と勤評闘争——宇和島での闘い
教育現場からの報告
政治家の葬式と教育現場
私たちの教師論ノート
地域社会史論考綴
「郷土」論・「地域」論・「地域史」論をめぐって

今井貴一
伊藤正俊
井上武夫
佐々木皓一
和田 幸
風谷和弘
中予研究会

愛媛の平和運動史に学ぶ
愛媛県原爆被害者の会の活動
「宇和島で平和を考える市民の広場」
核廃絶に向けて——問題提起——
参加者の発言
まとめ
愛媛住民へのアピール
メッセージ・祝電
バザール展示・頒布物一覧

篠崎 勝
久保仲子
薬師寺収
伊藤恒夫

愛媛住民へのアピール
メッセージ・祝電
バザール展示・頒布物一覧

第56号 1988年11月 (800円)

特集・女性史と地域社会史論
第一部 女性史研究の前進のために
“ここを変える”女性史の創造
全国各地域女性史研究の動向
えひめ婦人の運動——勤評闘争から核廃絶・男女平等まで

横川節子
谷本純子
川又美子

特集・らいてうと昌子
らいてうの生き方
昌子の婦人論・家庭論
昌子の詩歌と人生の軌跡
教育現場からの報告
まいまい二つ——私の生きてきた道——
私たちの教師論ノート(その2)

斉藤宏子
山本 紀
川又美子
玉井房子
風谷和弘

地域社会試論考綴

「ふるさと創生」論と「生活文化県政」と臨教審

篠崎 勝

地域社会史論考綴

——住民意識と権力意識——

井上武夫・井上啓・茎田弘道・篠崎勝
篠崎 勝

第57号 1989年4月 (8000円)

古代のムラとサト

中世の村落と領主権力

中世都市の構造

戦後改革の中の地域支配

『風の碑』余話——1920年代愛媛の労働運動から——

住居と地域社会

私たちの教師論ノート(その3)

小林昌二
川岡 勉
西尾和美
佐々木隆爾
敷村寛治
青木光利
風谷和弘

第58号 1990年1月 (8000円)

庄屋抜地訴訟と無役地事件

——自由民権運動との係わりを中心に——

矢野達雄

「市制」下の松山市財政

——歳入・歳出決算額を中心に——

多田信義

国民の新憲法草案

——主権の所在をめぐる——と天皇代替わり

斉藤宏子

坂出市の町づくり運動

八幡浜地域の住民の歴史

石井雄大
河野真一

第59号 1991年3月 (8000円)

愛媛県(伊予国)における大区小区制

——実施時期についての考察

山口孝義

明治前期・伊予地方の行政訴訟

町村制下の住民自治

県が変わる——行政区画から自治体になる

徳永高志

平和のうちに生きる権利の模索

伊藤正俊

「住民自治」研究グループ

西森茂夫

第60号 1995年9月 (8000円)

近代天皇制創始期における愛媛の被差別部落民の動きと差別行政

——三宅清昭・井上啓・茎田弘道・篠崎勝

近現代天皇制創始期における松山県農民一揆と地域支配層

——久万山一揆・久米一揆と旧藩知事留任運動——

三宅清昭・井上啓・茎田弘道・篠崎勝

第61・62号 1996年10月 (20000円)

特集・アジア・太平洋戦争終結50周年記念

戦争体験と戦後体験

アンケート

手記

足助威男 石井雍大 伊藤正俊 井上啓 岡中又三郎 尾上正一 風谷和弘

金相玉 茎田弘道 鴻上安博 合田千里 佐藤茂美 沢田充明 篠崎勝 白田

恒子 須賀典子 高瀬和子 玉上陸郎 鳥海美恵子 長崎慶一 水野政子 山

内鉄雄 山岡ヨシ

座談会——一九四五年八月十五日の私

第63号 1999年11月 (10000円)

特集・篠崎勝先生追悼

愛媛住民の記録係を貫いた人生

近代史文庫創立のころなど

四十八年刊の思い出

愛大地域総研の創設

愛大総研と「近代化班」

「地域社会試論」構築のころ

辺土のここになぜ生きる——篠崎先生と女性史サークル——

『池田町史』編纂を軸として

歴教協松山全国大会前後

愛媛の民主教育のバックボーン

最後の贈り物——篠崎勝先生と母親大会——

篠崎勝先生略歴

わが学問人生と大学(上)(聞き取り)

えひめ住民の記録係(遺稿)

文献紹介

安丸良夫『近代天皇像の形成』

愛媛県伊予地域における自由民権運動の発展

清家 斉
島津豊幸

古谷直康 14
風谷和弘
多田信義
星島一夫
越智 昇
島津豊幸
工水戸富士子
大岩義雄
澄田恭一
山本万喜雄
川又美子

第63号別冊 (10000円)

篠崎勝先生追悼集

第64号 2002年4月 (1000円)

愛媛県教職員組合の結成(1)

篠崎勝先生追悼特集(続)

我が学問人生と大学(下) (聞き取り)

篠崎さんと「心茶会」

感想

古文書解読

岩村高俊書簡

現代の動向

○一年度教科書問題年表

第65号 2009年11月 (1000円)

岡田温の農業論、四坂島煙害問題、農業調査、産業調査のことなど(上)

無役地事件再考

海南新聞に見る東学農民革命

「大逆事件百年」と「坂本清馬資料」

星歩句集と『星丘』の時代

労研饅頭から見えてくるもの

平和・人権の先覚者 安藤正樂

多田を中心とした交際

風谷和弘

篠崎勝

井ヶ田良治

佐野正治

島津豊幸

古谷直康

川東靖弘

矢野達雄

尾上 守

澄田恭一

横川節子

浜田紀男

井上 啓

河野真一

『明治前期農村社会経済史料』

第一輯(3) 「小作慣行」(品切れ)

第二輯(4) 「統計及表」(品切れ)

『地租改正史料』(14) (品切れ)

『明治前期殖産興業関係史料』

第一輯(8) 「蚕糸・紙・綿・その他」(二、八〇〇円)

『明治前期地方制度史料』

第一輯(5) 「県庁職制」(品切れ)

第二輯(6) 「戸長制度・官員履歴」(二、〇〇〇円)

第三輯(15) 「地方民会・県会議員履歴」(一、〇〇〇円)

『明治前期愛媛県議会史料』

第一輯(19) 「明治一〇年」(一、〇〇〇円)

第二輯(21) 「明治一一年」(一、六〇〇円)

『愛媛県「学制」時代教育関係史料』

第一輯(8) 「明治五・六・七・八年」(品切れ)

第二輯(9) 「明治九年」(一、五〇〇円)

第三輯(11) 「明治一〇年」(一、五〇〇円)

第四輯(12) 「明治一一年～一二年」(一、五〇〇円)

第五輯(29) 「文部省年報(愛媛県年報)」(一、五〇〇円)

『明治前期教育関係史料』

第一輯(20) 「愛媛県教育協会雑誌(抄)」(一、六〇〇円)

第二輯(22) 「愛媛県教育協会雑誌(抄)」(一、五〇〇円)

第三輯(25) 「愛比売新報・海南新聞・予讚新報・愛媛新聞」(二、〇〇〇円)

『明治前期政治運動史料』

第一輯(33) 「伊予地域における自由民権運動(1)」(三、〇〇〇円)

第二輯(10) 「国会開設前後(1)」(一、五〇〇円)

第三輯(13) 「国会開設前後(2)」(一、五〇〇円)

『愛媛近代史料』(カッ)内の数字は通しナンバー

『明治初期農民運動史料』

第一輯(1) 「松山藩・大洲藩・新谷藩」(品切れ)

第二輯(2) 「宇和島藩」(品切れ)

第三輯(3) 「吉田藩」(品切れ)

第四輯(7) 「廃藩置県以霞」(品切れ)

第五輯(17) 「無役地事件」(二、一〇〇円)

『松山藩幕末維新政治関係史料』

- 第一輯 (23) 「万延元年～慶応二年」(一、八〇〇円)
第二輯 (24) 「慶応三年～明治四年」(二、二〇〇円)

『明治前期住友関係史料』

- 第一輯 (27) 「慶応元年～明治二年」(三、〇〇〇円)
第二輯 (28) 「明治二年～明治三年」(四、〇〇〇円)

『愛媛県農民運動史料』

- 第一輯 (30) 「新居郡産米改良の沿革」 大正四年～大正八年」(二、〇〇〇円)
第二輯 (31) 「愛媛県の小作争議その一」 大正二年～大正三年」(二、〇〇〇円)
第二輯 (32) 「小松町農民運動史料」 大正二五年～昭和五年」(三、〇〇〇円)

『愛媛現代史料』

- 『資料・愛媛の婦人運動』第二集(二) (品切れ)
—— 一九四五年八月～一九四六年十二月 ——
『資料・愛媛の安保闘争』第一集(2) (三、〇〇〇円)
—— 一九五八年二月～一九五九年五月 ——
『資料・愛媛の勤評闘争』(3) 四、〇〇〇円
『資料・第二次愛媛勤評闘争』(4) 四、〇〇〇円

共同研究資料

○『天皇代替わり報道年表』 (品切れ)

—— 一九八九年一月～二月、一九九〇年一月～一九九一年三月 ——

○『二〇世紀略年表―戦争と平和編』 四〇〇〇円 会員価格三〇〇〇円

その他

- 『愛媛部落史資料』(近世より明治初年) 近代史文庫大阪研究会 二、八〇〇円
○『続愛媛部落史資料』 近代史文庫大阪研究会 六、二〇〇円
○『愛媛近代部落問題資料』(上) 近代史文庫大阪研究会 三、三〇〇円
(一九七七年～一九二五年)
○『愛媛近代部落問題資料』(下) 近代史文庫大阪研究会 三、七〇〇円
(一九二六年～一九四四年)
○宇和島藩庁伊達家史料 『大成郡録』 近代史文庫宇和島研究会 五、〇〇〇円
○宇和島藩庁伊達家史料 『式野』(上)(下) 近代史文庫宇和島研究会
各五、〇〇〇円
○宇和島藩庁伊達家史料 『家中田緒書』(上) 近代史文庫宇和島研究会
六、〇〇〇円
○宇和島藩庁伊達家史料 『家中田緒書』(中) 近代史文庫宇和島研究会
八、〇〇〇円
○宇和島藩庁伊達家史料 『家中田緒書』(下) 近代史文庫宇和島研究会
七、〇〇〇円

取り扱い書籍

- 『篠崎勝著作選集』第一巻 第二巻 セット価格六、〇〇〇円
○『資料愛媛労働運動史』 全九巻揃 七〇、〇〇〇円
第二巻～五巻 各五、〇〇〇円
第六巻～九巻 各五、〇〇〇円
○『愛媛県議会議史』第一巻 品切れ
第二巻～第五巻
○『愛媛の女性史』 近現代史第一集』 二、八〇〇円
○『愛媛県歴史協』愛媛の勤評闘争』
○『おはなし歴史風土記』愛媛県(岩崎書店)
○『みんなで綴る地域社会史論』
○『天皇就任儀式を考える』 七〇〇円
○『篠崎星歩句集 一竿の竹』(創風社出版) 二二〇〇円 会員価格一五〇〇円